

丹波市人権・同和教育協議会

第38号

人権ネットワーク たんば

第64回 兵庫県人権教育研究大会

丹波地区大会

中央大会(加古川市)

7月29日（土）篠山市立四季の森生涯学習センターをはじめ4か所を会場に、第64回兵庫県人権教育研究大会丹波大会が開催されました。丹波市からは、報告者7名（認定こども園いちじまこども園・大東まささん、東小学校・堀加奈美さん、恩鳥福祉会たんば園・石塚寛さん、生涯学習応援隊SO-SO.39北村久美子さん、高齢者総合福祉施設丹寿荘・酒井伸義さん、小川小学校・上田裕一さん、三輪小PTA・柴原俊平さん）、司会者7名、記録者14名をはじめ、180名の参加者の皆様にお世話になりました。

人権について学ぶ機会が少なくなってきた今日、この大会が市民の皆さんにとって、今後さらに人権感覚を磨く研修の場となるよう、大会運営の充実に努めていきたいと思います。市民の皆様のご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



10月1日（日）加古川南高等学校を会場に、第64回兵庫県人権教育研究大会中央大会が開催されました。丹波市からは、認定こども園・小・中・高の各学校、PTA、行政等から約50名の参加がありました。司会者として2名（新井小学校・吉見典彦さん、鴨庄小学校・川口秀穂さん）、報告者として3名（認定こども園いちじまこども園・大東まささん、小川小学校・上田裕一さん、三輪小PTA・柴原俊平さん）の皆様方にお世話になりました。

市同教事務局は、分科会「PTA活動と人権」に参加しましたので、三輪小PTAの報告内容や分科会の様子をお伝えします。三輪小学校は、丹波市内のコミュニティ・スクールの先進的学校です。数年後には、市内のすべての学校で、このコミュニティ・スクールという制度が導入されると聞いています。保護者や地域の人たちが積極的に教育活動に関わり、共に学校と地域が融合した教育を創造しようとするもので、学校運営協議会が中心となって行われる制度です。



分科会「PTA活動と人権」

人権ゆかりの地探訪

(春日地域) 講師：元市同教事務局長 中山謙逸さん

1 はじめに

丹波市人権・同和教育協議会は、丹波市内の人に直接取材された内容についての説明があり、公的文書にはない生きた歴史証言も知ることができます。「人権ゆかりの地を訪ねて」（前編・後編）を発刊しています。2013年度からは、この冊子に掲載されている現地を訪問し研修する「丹波市人権ゆかりの地探訪（フィールドワーク）」を始めています。本年度も、学校関係者（49名）一般（20名）の参加を得て、春日地域の人権ゆかりの地を巡り、歴史や先人の考え方・生き方にふれる研修会を実施しました。講師は、元丹波市人権・同和教育協議会事務局長中山謙逸さんにお世話になりました。

2 研修内容

(1) 春日鉱山の亜炭（亜炭：石炭化度の最も低い暗褐色の石炭一種）



1944（昭和19）年ごろから1949（昭和24）年までの昭和の混乱時代をアッという間に駆け抜けた「春日鉱山の亜炭」

の歴史について講話を受けました。戦局の進展と共に阪神地方の燃料事情が次第に窮屈したために、この解決策に春日鉱山の開発がにわかに着目され、一時期は150名の従業員を擁したそうです。戦後の急速な燃料事情の好転と共に、所詮戦争の申し子であった草質亜炭の需要は減り、昭和24年

に閉山となったことです。採掘に従事された元の人に直接取材された内容についての説明があり、公的文書にはない生きた歴史証言も知ることができます。

(2) 融和運動家 細見春吉

水上郡が生んだ部落改善指導者であり、融和運動家である細見春吉について、詳細な資料に基づいた講話を受けました。1876年（明治9）年に春日町に生まれ、小学校教員として赴任した学校で、被差別地区の児童就学状況に心配を寄せ、校内での差別や偏見の現実を知り、地区の生活改善に尽力されました。また、「下駄をはいて毎日のように地区を訪れ、丸坊主の頭が見えると、とんまるさん（愛称）がきてくれとったやと歓迎された」等々の、細見春吉の人物が偲ばれるような逸話についても紹介がありました。

細見春吉が兵庫県清和会水上郡支部幹部役員（融和運動家）として活躍していた1922（大正11）年は、全国水平社が結成され、水平社宣言が採択された年でもありました。部落史を学ぶ中で、同情・融和や部落に責任を求める融和運動（改善運動）は一段高い所から手を差し伸べるもので、これでは部落問題は解決しないということで水平社運動が展開されたと認識していましたが、細見春吉がこのような課題を認識し解決できなかったものの、ただひたすら部落改善の啓発に挺身する信念に貫かれた姿はひしひと伝わってきました。

(3) 学田の碑

江戸時代、農民の子どもはほとんど勉強する機会がなかったのですが、明治時代になって、1872（明治5）年の学制発布によって、多くの子どもたちが学校へ行けるようになりました。1895（明治28）年頃の春日地域のある小学校では、当時授業料が払えず、学校を断念した子どもがたくさんおり、学校に行ける子どもも、家の手伝いのために休むことが多かったという現状があったそうです。そのような状況を改めようと、当時の村長と校長を中心となり、学校田を設置し基本財産を作り、授業料を撤廃する取組をすすめ、校区の各家庭をまわり子どもを学校に行かせてもらえるように働きかけました。このことによって、多くの子どもたちの就学が可能となり、この村は兵庫県下でも有数の「教育村」と言われるようになったということです。こうして創られた土地のことを「学田」といい、今でも「学田の碑」が残っていますので、講話後見学しました。

3 おわりに

この研修会での学びが、各校の今後の指導方法の創意・工夫・改善に生かされ、どこか知らない遠くのできことではない、地域に根差した人権・同和学習がすすめられることを期待しています。

人権教育研修会（学校教育分野）

差別・被差別を超える人権教育

～板野中学校の全体学習が培ってきたもの～

講師：徳島県板野郡松茂町立松茂中学校 教諭 森口健司さん

きたいと思います。「部落差別はなくならない」と言われるが彼女らのような若者を増やすことができれば「差別はなくせる」のではないかでしょうか。同和問題の学習を通じて生き方を学んでほしいと思います。

参加者の感想

森口先生は今日、学ぶことで人は変わると話されました。一人で学ぶということではなく、仲間と一緒に学び感じ合い、そこでできた絆、いろんなことを認め合えたことが、人を変える力、社会に出た時の生きで行く力になるのではないかと感じました。



私は徳島県の部落に生まれました。大学時代、京都での被差別体験が教職へ思いを強くし、卒業後中学校教師になり、子どもたちの心に響く同和教育を模索する中、1990年度より板野中学校現場において、「生徒が生徒を変える、語り合いの人権・部落問題学習」（全体学習）を創造し力を注ぎました。地区外の子は誰が地区の子か知っています。でも地区の子はそれを知りません。そこからが戦いました。私が部落出身であること、そして今までの生い立ちや被差別体験を本気で語ることで、生徒、親、地域とつながり合いました。部落を隠し、ないことは生きていけません。語り合うことができ、共に乗り越えていくという教育でこそ人は変わるのだと思いました。「部落差別の解消の推進に関する法律」が昨年なんのためにできたのかということをもう一度考えてもらいたい。私が赴任した板野中学校の当時2年生であった生徒が25年たって、2016年度鳴門市人権地域フォーラムで語った中の一部を紹介します。

人権教育研修会（社会教育分野・行政職員）

共生のまちづくり

～障害者差別解消の視点から考える～

講師：社会福祉法人西宮市社会福祉協議会 玉木幸則さん

から起こしてしまったとか、その精神に障害のある人を治療する措置入院も含めた精神医療のあり方に問題があるように伝えていました。また、障害者の入所支援施設のセキュリティ対策を強化すべきというような伝え方に憤りを感じてしまいます。

さらに衆議院議長などに宛てた手紙には、障害者を殺す理由として、「世界経済の活性化」をあげたうえで、障害者の存在は、経済活性化を妨害するという趣旨の内容を書いています。これは、まさに「優生思想」の本質であり、これに類似した考えを持つ人は、まだまだこの日本にも存在しているという警鐘であるよりも聞こえてしまうのは、僕だけでしょうか。

今回の事件を通して感じこととしても、なぜ障害がある人だけひとつの場所に集団で暮らさなければならないのかいう、不自然さに疑問を感じている人がどれだけいらっしゃるのか。もしもにすぎませんが、一人ひとりの暮らしが保障されていたら、このような惨い事件が起きていたかもしれません。



○「人間の尊厳」について

・人間の尊厳について、しっかりと伝えきれていない憲法学者や人権を研究するものは、反省しなければならない。そしてまた当事者や社会福祉従事者、社会福祉を研究するもの、教師も、反省しなければならないのではないだろうか。

・人権としてとらえていく ピープルファースト

「私は障害者としてではなく、まず、ひとりの人間としてみてほしい（まず第1に人間として…）それは、高齢者なども同じことではないか？」チャイルドファースト「私は、障害児としてではなく、まず、人の子どもとして見てほしい」

○「あるテレビ番組」について

・いまだ障害者のイメージは「感動する・勇気をもらえる」というものがほとんど。「なぜ世の中には、感動・頑張る障害者像があふれるのか？」

・「感動」というのは、一方的に押し付けた「感動」やねん。一緒に怒ったり、笑ったり、考えたり、想いをすりあわせる中で、相互に確認していくことで感動が生まれる。それは、一方的ではなく、お互いに合致した時に、「ああそうやったか」ってことがほんまの感動ちゃうんかな。でも今作られているのは、障害者と健常者という上下関係が出来上がっていて、「してやっている」とかそんなところで作られている。みんなが幸せになることをみんなで考えていくことが大事なことで、それをつき詰めていくと“人権を守る”であったり“差別をなくす”、そういうところに繋がっていくんちゃうんかな。

無料お試し購読受付中!!

詳しくは下記へお問い合わせ下さい
地域のニュース読みなら
丹波新聞
TEL.0795-72-0530 FAX.0795-72-1956
丹波新聞 検索

長年の知識と確かな技術と 自由な発想— 新しい業務スタイルを提案します。

防犯カメラ
防犯対策から施工まで
徹底サポート!
安心と安全のために
オフィス全体の
セキュリティ対策
○情報漏洩
○不正アクセス
○なりすまし
○データ漏洩等ブロック
○迷惑メールブロック
○UTM（セキュリティプロバイダ）
Unified Threat Management
株式会社ユニットシステム
http://www.unitsystem.jp/
E-mail: info@unitsystem.jp

例年大好評ツアー 募集開始! ★早春 演歌の祭典★

♪にっぽん演歌の祭典2018大阪公演♪
～～～大阪城ホール～～～
出発日 / 2月20日 (火)
旅行会費 19,800円 (基盤会員SS席・お弁当・お茶付)
添乗員 同行いたします
豪華出演者
五木ひろし、前川清、石川さゆり、藤あや子
福岡こうじ、市川由紀乃、三山ひろし、西田あい
川上大輔、丘みどり、中澤卓也、坂本杏介、純烈
司会:コロッケ 特別出演:演歌会元加藤訓
演奏:三原綱木&ザ・ニューフラッシュ

編集後記

国連総会で12月10日を人権デーと定め、世界の色々なところで「人権」について考える日になっています。丹波市でも「丹の里人権のつどい」が開催されました。また12月2日・3日には、全国人権・同和教育研究大会が松江市で開催されました。次回に、これらの研究大会の内容についてもお伝えしたいと思います。